

主 題：喜んでささげる者を神は祝福してくださる

聖書箇所：ピリピ人への手紙4章14～23節

創世記4章1節から8節のところに、アダムとエバの2人の息子の話が出てきます。カインとアベルが神様にささげものをしますが、カインのささげものは神様に受け入れられず、カインがアベルを殺してしまうという悲惨な結果になります。この原因は聖書にははっきりと示されていませんが、きょうはそのヒントと、なぜ私たちはささげものをするのか、そして、それによってどんな神のみわざがなされるのかを考えていただきたいと思います。

1. あなたにすばらしい交わりを与えてくれる (14～16節)

● 主にある兄弟姉妹との関係において

ピリピ書1章の中にパウロとピリピの教会のすばらしい関係のことが出てきます。パウロは彼らのことを祈ることを喜び、神様に感謝していました。そして、24節では、パウロは早く天国に行って、イエス様にお会いすることを望んでいるけれども、ピリピの人々のためには自分が生きることが必要であるとさえ言っています。パウロは心からピリピ教会のことを気遣っていました。

それに対して、ピリピの人々もパウロを気遣い、ささげものをします。当時ピリピ教会のあったマケドニア地方(現在のギリシャ)の教会は苦しい試練と極度の貧しさの中にありましたが、聖徒を支える交わりの恵みにあずかりたいと願って、彼らは惜しみなく、力以上にささげたと第2コリント8章1節から4節に書かれています。

この少し前、プラトンが私有財産こそが悪の根源であるとして、すべてのものを共有することを勧め、そのときにこの『分け合う』という言葉がよく使われました。そのためか、キリスト教的に思えるこの言葉は、新約聖書の中ではたった3回しか使われません。しかし、パウロはここであえてこの言葉を使っています。財政の面で、健康の面で、人間関係の面でと、すべての困難は神様からのいただきものだから、ともに共有すべきであると言っています。そして、そうすることによって、お互いのことを気遣い、思いやることで、お互いの信仰の交わりは深くなっていきます。相手のために仕えていこうという、そういう交わりは神様が祝福してくださいます。

私たちの教会においても、教会内の人々や宣教師の宣教地での必要を覚えることによって、交わりを強めることができます。神様は、ささげるという選択を与えることによって、より神の恵みにあずかる方法をそなえてくださっているのです。

● 神様との関係において (18節)

ピリピ教会がパウロにした献金は、つまり神様へのささげものです。ほかの困っている人に何かをささげるといことは、神様への礼拝と同じ意味があります。礼拝とは、神様に自分自身をささげることです。これはクリスチャンに与えられたすばらしい恵みであり、決して忘れてはならないことです。

2. あなたに本当の宝を与えてくれる (17～18節)

● 本当に価値のあるものとはどのようなものでしょうか？

パウロが本当に願っていたのは、彼にとって必要な“もの”ではなく、ピリピの人々への神様の祝福でした。17節で使われている収支という言葉は、商業で使われる損得を意味する言葉ですが、ここでパウロが言っているのは、神様は我々の犠牲以上のものを与えてくださるということです。私たちがささげものや働きをしたら、神様は天に宝を積んでくださる、だからささげものをした方が得だと言っているのです。それがわかっているのに、私たちがささげ物をするのをためらうとしたら、天や永遠ということが本当の意味で納得できていないのかもしれないかもしれません。そしてそれ以上の問題は、我々の罪です。目先の自分の必要が優先されているのです。神様はそんな人間の弱さをよく知っておられますから、天の宝をはっきりと約束してくださっているのかもしれないかもしれません。ささげるとい行為だけで十分な恵みですが、それを励みにして生きていけるように、このような約束を与えてくださっているのかもしれないかもしれません。では、神様の約束してくださっている祝福とは一体何でしょう？

17節に出てくる「霊的祝福」です。物質ではありません。私たちは困難が与えられたとき、私はこんなに尽くしているのになぜ報われないのかと思ってしまう。そんなときその人は、目に見えるものを期待していたり、与えられているものに気づいていなかったり、人と比べていたりしないでしょうか。神様は目に見えないものを与えてくださっています。この地上で多くの富を持っていても、どれだけ健

康でも、天に行って終わることのない罪や永遠の苦しみを受けるとしたらどうでしょう？ 私たちには、天国だけでなく、地上でも神の導きの中であって生きることができるという祝福があります。マタイ 6 章 8 節に「あなたがたの父なる神は、あなたがたが願う前に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。」とあります。神様は私たちの必要をご存じで、必要な時に与えてくださいます。多くのことは私たちの思いどおりではないかもしれませんが、しかし完全を知っておられる神様が必要をなしてくださっているのですから、そこに霊的祝福があるのです。地上の宝ばかり気にせず、神様に喜ばれる生き方をしているかどうかをいつも覚えることです。どのような困難の中でも、常に喜びや平安の中にいた、パウロがよい模範です。

● ささげ物をするとき、私たちは何に注意すべきなのでしょう？

18 節の終わりに「それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。」とあります。神様が喜んでくださることが天に宝を積むことです。高価なものや大きな犠牲を望んでおられるではありません。神とともに歩み、神が喜ばれるように生きていくことです。ささげるものより、ささげる心をごらんになっています。第 2 コリント 9 章 7 節に「ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。」とあります。何をささげるかではなく、どんな思いでささげているかです。そのときの動機をごらんになっています。カインのささげた作物に問題はありません。カインの心に問題があったのです。

3. あなたを成長させてくれる (18～19 節)

● 「本当の満足」をいただける

当時、イエス様に出会うまでは、社会のエリートとして暮らしていたパウロが、福音を述べ伝えたために、投獄されていました。しかし、パウロは満ち足りていました。パウロは信仰のゆえにすべてをささげた人物です。パウロは物質、地位、名誉を持っていたわけではありません。この世の一時的な喜びではない、本当の喜びを持っていました。皆さんもイエス様を信じたとき、イエス様が神で、十字架で死なれて 3 日の後に復活されたことを信じただけではなかったでしょう。罪を憎んで神様に喜ばれるように生きようと考えていたはずです。つまりそれが神を第一とするということです。それこそが本当の信仰です。パウロはその思いにひたすら従順だったから、常に満足と感謝があったのです。私たちも同じであれば、満足し感謝を持ち続けることができます。神様のみことろと自分のしたいことが分かれていて、自分のしたいことに行いが流れると思心烦い、感謝がなくなっていく。物のあるなしには関係ありません。

● 「神様に対する信頼」をいただける

19 節「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。」とあります。パウロは神様が貧しいピリピを必ず満たしてくださいと確信していました。それは、ピリピが神を第一にしていたからです。彼らの教会にもいろいろな問題はありましたが、内部の問題はさておき、力以上にパウロにささげるという選択を神が喜んでおられるからです。自分の教会第一ではなく、神第一、周りの教会、人々を第一にする教会だったからです。そんな教会を神様は必ず祝福してください。

その証拠は、このころからしばらくの間、多くの殉教者を出しますが、今も教会が存在しているということです。神様が教会を祝福されたから、現在、これほど多くの教会が残っています。そしてもう一つ、22 節「カイザルの家に属する…」とあるように、かつてはキリスト教を迫害したローマ帝国が中身をかえられて、キリスト教国になったことです。

きょう、皆さんにお勧めしたいのは、神様をためしていただきたいということです。神を試みてはいけません。マラキ書の 3 章 8 から 2 節にあるように、神様をますます信頼するためにためしてみてください。神様が私たちの必要に対して、どのように神のわざをなしてくださるのか、実際にこの目で見ることもできるのです。神様は皆さんの必要をその時に応じてずっと与えてくださいます。神様に受け入れられるささげものと受け入れられないささげものがあることを見てきました。果たして皆さんのささげものは神様に喜ばれて受け入れられているのでしょうか。きょうの礼拝も人数分喜んで祝福してくださっているのでしょうか。献金も、今年 1 年の私たちの歩みも…。人がどう評価するかではなく、神様がどうかです。新しい 1 年を迎えようとしています。ぜひ新しい 1 年が神様に喜ばれるものでありますように祈ります。